

(IV-30) 市街地におけるプロムナード整備手法の研究 ~相模原市における事例~

東海大学 学生員 ○奥重裕貴
正会員 秋本福雄

1. はじめに

都市づくりにおいて、近年、歩行者空間確保の必要性が提起され、各都市において街路の歩行者空間整備、緑道整備、河川の親水空間の整備が行われている。

これまでプロムナードについては沿道修景、植栽の設計、路面の設計等の街路、緑道、河川の修景手法が研究されている。今回の研究ではプロムナードを整備するための事業手法に焦点を絞る。相模原市の事例に即して現実のプロムナードが、街路等のどのような施設について、いかなる事業手法、土地利用規制によって整備されているのかを解析し、それらの手法が施設の状態や周辺の土地利用や周辺施設等の地域の条件によってどのように規定されているのかを明らかにする。

2. プロムナード整備の事業手法の概況

相模原市のプロムナードの概況は、表-1の通りである。全事業56ヶ所の内、街路事業が50ヶ所、緑道事業が5ヶ所、河川事業が1ヶ所と、プロムナード整備は街路事業が中心となっている。街路事業は、平成二年度に道路部が「魅力ある道づくり事業計画」を策定したもので、50ヶ所のうち街路事業単独が25ヶ所、これに地区計画やまちづくり協定による壁面後退等の土地利用規制が関係するものが19ヶ所、土地区画整理事業や市街地再開発事業の市街地開発が関係するものが3ヶ所、市街地開発・土地利用規制の両方が関係するものが3ヶ所となっている（表-1参照）。

緑道事業は畠地かんがい用水路跡地等の用地転用による整備である（図-2参照）。幹線水道管上部利用の横浜水道道（L=12km, W=12m）、畠地かんがい用水路跡地利用の相模緑道緑地（L=10.5km, W=6m）、相模仲良し小道（L=5.1km, W=9m）、下水道暗渠上部利用の西千代田緑道（L=0.8km, W=10m）、東千代田緑道（L=0.6km, W=10m）の5ヶ所が整備されている。畠地かんがい用水路跡地利用、幹線水道管上部利用の緑道は、図-1のように下水道暗渠化上部利用の緑道に比べて延長がかなり長いことがわかる。

河川事業は相模原市内を流れる道保川、姥川、鳩川の3小河川のうち、道保川1ヶ所を平成元年度に河川整備課が「道保川水辺空間整備計画」を策定し、下流部分1400mについて斜面林・湧水の保全を行い、多自然型河川工法による親水護岸を整備し、幅員3.0mの河川管理用通路に遊歩道を整備している（図-3参照）。

以上のことから図-1のように相模原市のプロムナードは、乗降客2万人以上の駅周辺や、市役所、淵野辺公園等の大規模公共施設周辺、相模台団地等の住宅地を中心に整備している街路事業に、用水路跡地、水道用地を利用した緑道事業と、清流の小河川に遊歩道を整備した河川事業が加わって成り立っている。

表-1 相模原市のプロムナードの概況

事業・施設名	位置	面積	整備計画面積（ha）(a)	実施面積（ha）(b)	未実施面積（ha）(c)
街路事業	計 1	20.8 (3.5-11.9-9.5)	20.8 (3.5-11.9-9.5)	0.0	0.0
上水道渠化+歩道事業	計 2	7.0 (1.0-1.0-5.0)	7.0 (1.0-1.0-5.0)	0.0	0.0
緑道事業	計 3	1.0 (0.0-0.0-1.0)	1.0 (0.0-0.0-1.0)	0.0	0.0
河川事業	計 4	0.8 (2.0-1.0-0.2)	0.8 (2.0-1.0-0.2)	0.0	0.0
合計	56	45.6 (10.5-11.9-9.5)	45.6 (10.5-11.9-9.5)	0.0	0.0
注：(a)未実施面積は、既に実施された面積を除いた面積を示す。(b)実施面積は、既に実施された面積を示す。(c)未実施面積は、既に実施された面積を示す。					

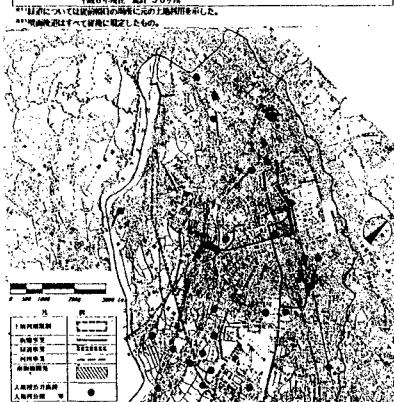


図-1 プロムナード整備の全体概況

3. 街路事業によるプロムナード整備の事業手法

(1) 街路事業単独

街路事業の種類は新設が2ヶ所、拡幅等の改良が23ヶ所ある。いずれの事業も路面のカラー舗装、街路樹の植栽、サインの設置等の修景を施している。新設の事業は相模原北公園周辺に整備する予定である。幅員等は未定。街路全体を拡幅し、歩道の設置・拡幅する事業は4ヶ所で、淵野辺駅、小田急相模原駅の駅周辺で整備されている。街路全体の拡幅は行わず歩道の設置・拡幅する事業は8ヶ所で、相模台団地等の住宅地の街路が6ヶ所、南合同庁舎周辺1ヶ所、淵野辺駅周辺1ヶ所となっている。住宅地では、車道にクランク、スラローム等を設置し歩車道の段差を縮小し、コミュニティー道路を整備している。歩道の設置・拡幅を行わず、舗装改良等の修景事業が11ヶ所で、市役所周辺4ヶ所、相模川沿い5ヶ所、横山公園周辺1ヶ所、若松町の住宅地1ヶ所となっている。

のことから駅周辺では街路全体の拡幅による歩道の設置・拡幅事業、住宅地では歩道の設置・拡幅によるコミュニティー道路の整備事業、大規模公共施設・河川・公園緑地周辺では歩道の拡幅をともなわない修景事業が実施されていることがわかる。

(2) 地区計画やまちづくり協定が関与するもの

図-1のように東林間駅、小田急相模原駅、橋本駅、淵野辺駅、上溝駅、相模原駅の駅周辺で、地区計画やまちづくり協定が関係するプロムナード（図-4参照）が整備されている。地区計画とまちづくり協定の両方が関係する事業は8ヶ所、まちづくり協定のみ10ヶ所、地区計画のみ1ヶ所となっている。地区計画では、建築物等の高さの最高限度、1階部分の用途、壁面の位置、容積率を規制している。まちづくり協定では、建築物の外壁のデザイン、色、材質、広告物等に関する基準を定め、壁面の位置を規定している。地区計画、まちづくり協定により壁面後退1.0m～1.5m規定し、実質歩道幅員を4.0m以上としている（表-1参照）。

街路事業の種類は、街路全体を拡幅する事業は2ヶ所で、地区計画、まちづくり協定の両方が関係するもの1ヶ所、まちづくり協定のみ1ヶ所である。街路全体の拡幅は行わず歩道設置・拡幅する事業は8ヶ所で、地区計画、まちづくり協定の両方が関係するもの6ヶ所、まちづくり協定のみ2ヶ所となっている。歩道の拡幅等を行わず、舗装改良、街路樹植栽等の修景のみの事業は9ヶ所で、地区計画、まちづくり協定の両方が関係するもの1ヶ所、まちづくり協定のみ7ヶ所、地区計画のみ1ヶ所となっている。

以上より地区計画、まちづくり協定が関係するプロムナード整備は、駅周辺に限られていること。ほとんどのケースでまちづくり協定が締結されていること。その中で、新たに歩道の設置、または拡幅する場合にまちづくり協定と合わせて地区計画が決定されていること。まちづくり協定のみの場合は、歩道の設置・拡幅を行わず舗装改良、街路樹の植栽等の修景のみの事業が多いことが明らかである。

(3) 土地区画整理事業や市街地再開発事業が関与するもの

図-1のように相模原市の2大ターミナルの相模大野駅周辺で土地区画整理事業、橋本駅周辺で市街地再開発事業が関係するプロムナードが整備されている。橋本駅北口地区では市街地再開発事業と地区計画の両方が関係している（図-4参照）。相模大野駅周辺では、土地区画整理事業により整備された街路沿道について建築物等のデザイン、色彩等の行政指導を行っている。街路事業の種類は、街路の新設が2ヶ所、街路全体の拡幅が2ヶ所、街路全体の拡幅はせず、歩道設置・拡幅等の断面構成変更が2ヶ所である。

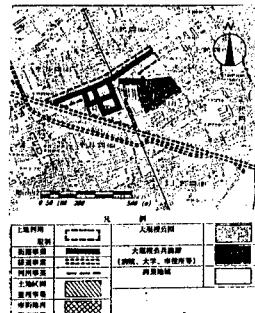


図-2 総合事業(東林間地区、相模原緑地)

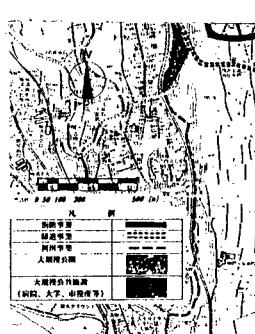


図-3 市街事業(道保川周辺)の整備概況図



図-4 街路事業(橋本駅周辺)の整備概況図